

駅周辺地区都市再生 整備計画の方向性は



とみなが 富永 創造 議員

答 にぎわいの創出と活性化を図る

富永 これは大震災からの復興計画であるが、町の大きな課題や特徴を考慮した中心市街地の将来の姿や方向性をどのように指示されたのか。矢吹公園と複合施設との一体的利用に価値は生じるが、計画変更された理由、各施設の基本計画策定における住民との合意形成と財政負担の最小限化の掲載の考えを伺います。

町長 復興計画では重点課題の一つに位置づけ、中心市街地復興まちづくり推進事業として、街路及び景観形成、空き店舗・空き地の活用などの整備を行い、にぎわいの再創出と活性化を図るとしています。複合施設やポケットパーク等の完成により、魅力とにぎわいのある中心市街地として再生するものと考えています。

町政を問う（一般質問）

動物愛護の取り組みを

答 殺処分ゼロを目指す

複合施設予定地は、当初の東邦銀行跡地の地盤が軟弱と判り、整備予定の矢吹公園と隣接した丸政食堂裏を次の候補地としましたが、地権者の同意が得られず、JA跡地になりました。距離も百メートルほどしか離れず、周辺の施設、店舗等との相乗効果は十分と考えます。

基本計画において、広く住民の皆様からご意見をいただく手法の検討や、最小限化という言葉を使うかも協議したいと考えています。



複合施設建設予定地（旧JA）

富永 第6次総合計画で、「動物に優しいまちづくりを目指す」とあります。現在、少子高齢化一人暮らしの増加で、犬猫などの動物と人間生活の良好な住環境が求められます。県や保健所との連携、飼い主のマナーも含め、犬や猫の殺処分ゼロを目指した行政の取り組みを伺います。

町長 町では放し飼いなどの犬や猫の通報を受けると、職員が直ちに捕獲し、町民からの問い合わせや犬の登録データと照合しながら、一時的に役場で保護し、飼い主が見つからない場合は、県南保健事務所に収容を依頼しています。今年度、町から県南



保健所への捕獲及び収容は、11月末現在で、犬が12匹で、そのうち返還2匹、処分2匹、譲渡2匹、県南保健所での収容が6匹です。猫は48匹で、そのうち譲渡1匹、処分が47匹となっています。

また、県内の保健所で収容されている犬や猫は、譲渡会が開催され、平成27年度は犬が30匹、猫が29匹譲渡されました。町も、今年度はふるさと思いやり基金を活用し、6月より不妊去勢手術費の一部を助成し、捨て犬などを減らす取り組みをしています。今後も町独自の譲渡会の開催など、十分に対応策をとりたいと考えています。